

# 活かそう！わがまちの近代化遺産

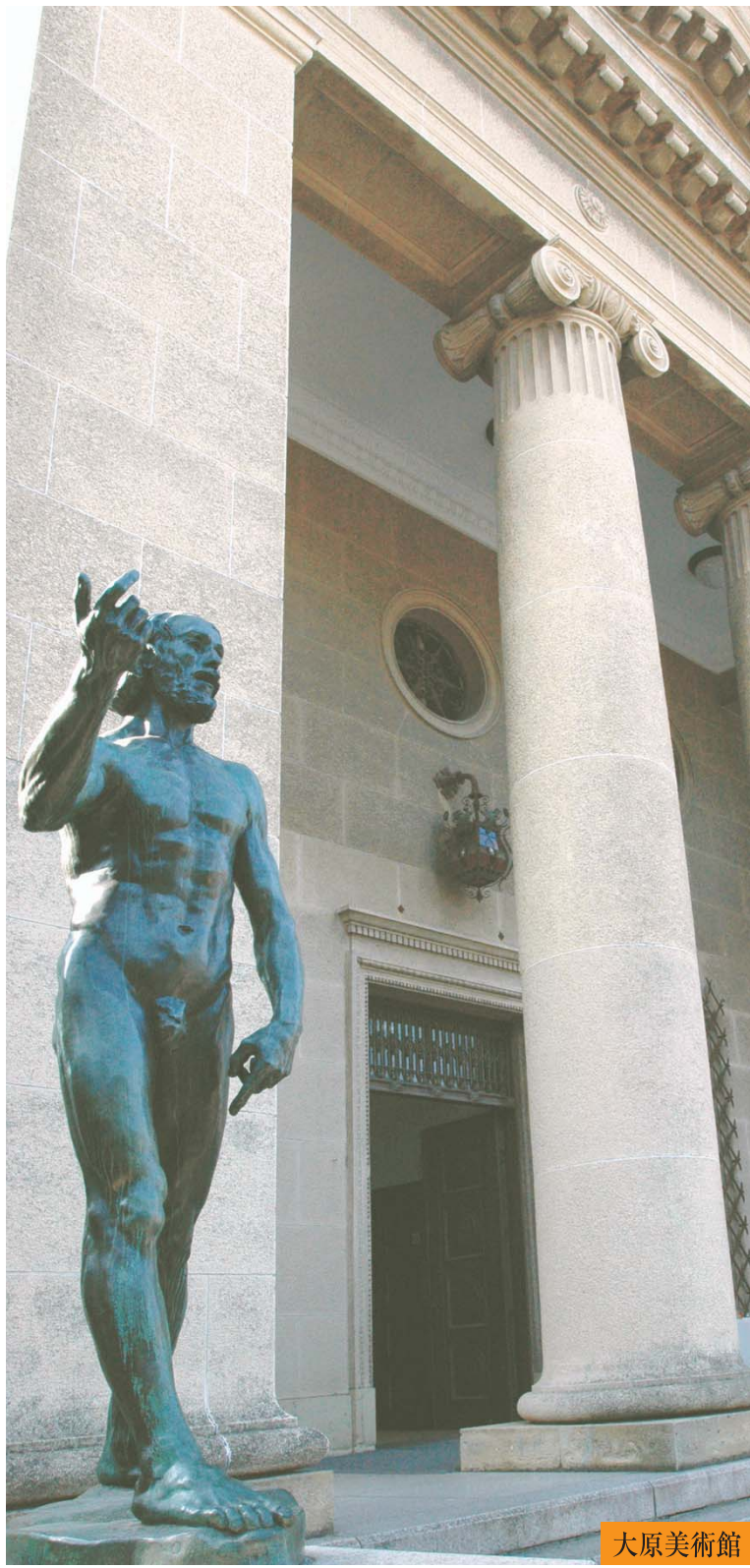
山陽新聞社は今年、地域活性化キャンペーン「活かそう！わがまちの近代化遺産」を展開します。近代化遺産は、明治、大正、昭和にかけて建設され、日本の近代化に貢献した建築物や土木建造物で、岡山県内に約1700件報告されています。こうした遺産にスポットをあて、先人の営みをあらためて見直すことで、地域の振興につなげていきます。



**近代化遺産の価値や魅力は、どんなところにあるのだろう。**  
大原 倉敷に住んで実感するのだが、このまちは今でも新しい魅力がどんどん発見されている気がする。例えば、昨年十月から倉敷美観地区の倉敷川河畔を中心に夜間景観照明が行われている。しっとり落ち着いた光に包まれて、今まであまり見えていなかった建築物のたたずまいに、はっとさせられる。  
藤木 仕事柄、文化財の補修なども多く手掛けている。素晴らしい建築物は「これは絶対後世へ伝えるべきだ」という気持ちにさせられる。伝統ある良いもの、味の

藤木 例えば、大原美術館外の入り口周りの石垣は、先代の時代につくられていたもので、その材料を再利用して再構築したのだと、上田氏の著書にあった。  
上田 人の出会いも大きな要因だ。孫三郎は、設計を当時の大原家の建築顧問で、世界的な建築家ル・コルビュジエの影響を受けた薬師寺主計（八八四～一九六五年）施工は「旧日本銀行岡山支店」を手掛けた藤木正一（二八九～一九六七年）に集中して任せた。そうすることで、統一が取れ、コンセプトのきっちりした町が生まれた。  
藤木 石の彫刻など手の込んだ「旧日本銀行岡山支店」の施工

が、江戸期以来根付いているまち。それに市民意識を持った行政と、絶妙のコンビを組んで前進してきた。  
上田 私も歴史が根底にあると思う。特に、大正から昭和にかけて、倉敷紡績の存在を中心に、いろいろな有能な人たちがスタッフに加わり、お互い考えを出し合いながらまちをつくっていったという経験が大きいのでは。  
藤木 今では、白壁の建物を、博物館や個性的な店舗としてうまく活用し、大原美術館などの近代化遺産と融合させている。歴史が今に息づくまちの雰囲気や、見事に醸し出している。



大原美術館

## 今に息づく歴史 新たな魅力発信

県内でもっとも多くの近代化遺産が集まるのが倉敷美観地区。大原美術館などの洋風建築が、江戸期の町家や白壁の建物が並ぶまち並みのアクセントとなり、独特の風情が訪れる人の心を引き付ける。倉敷に思い入れの深い三氏に、近代化遺産の魅力や、活用策を話し合ってもらった。



旧第一合同銀行倉敷支店

### 倉敷座談会

大原美術館理事長  
ノートルダム清心女子大教授  
藤木工務店会長

大原 謙一郎氏  
上田 恭嗣氏  
藤木 鐵三氏

あるものは大切にしていくなさ。上田 かつて建物は直接人の手で作られていた。材料ついでに、地域にふさわしいものが吟味され、考え抜かれていた。今となつては、経済的にも、技術的にもつかれないものだ。私たちは、そういう歴史的な流れをきちんと把握し、大切な文化資料として、後世へ残していくべきではないか。  
**倉敷美観地区に近代化遺産が集積した背景は。**  
上田 まずは、紡績業で富を、自分の生まれたまちを美しくするために注いだ美業家、大原孫三郎（一八八〇～一九四三年）の存在が大きい。  
大原 孫三郎は、当時としての最先端をつくり、「一番ハイカラで、一番モダンで、いいものをつくりたい」と考えていたに違いない。しかし、大事なもの壊して新しくしようとはしなかった。

技術を認めた主計が孫三郎に進言し、正は孫三郎から「第一合同銀行倉敷支店の施工を急ぎます。孫三郎は、そこで正の仕事ぶりを直接見て、信頼されたさうだ。」  
大原 倉敷中央病院の片隅で現在も活用されている「旧倉紡中央病院外来棟」なども、孫三郎の命を受けて主計が海外の状況を調べ、正が当時の最新のアイデアと技術を注いでつくり上げた。  
上田 倉敷が素晴らしいのは、そうしたまちづくり、建物づくりが一代で終わらなかつたところ。戦争を挟んで孫三郎の子息、総一郎（一九〇九～六八年）、薬師寺の部下であった浦辺鎮太郎（一九〇九～九二年）に引き継がれている。  
**今や倉敷美観地区は、全国有数の観光地に発展した。その秘策はあったのだろうか。**  
大原 倉敷は、伝統を大切に守つていこうとする市民の心意気をもっと伝えていくべきではないか。

県内の他の近代化遺産の活用は、倉敷美観地区のノウハウが生かせないか。  
上田 近代化遺産の建築群の中でも、銀行建築と学校建築には素晴らしいものが数多く残っている。しかし、いずれもまだまだ活用されていない。かつての用途で使い続けることが一番と思うが、地域のコミュニティ施設として、また地域の財産として守り、伝えていく努力をもっとしていくべきではないか。



日本基督教団倉敷教会教会堂



倉敷アイビスクエア

藤木 古い建築物を再活用する上では、補修の面や、建築基準法など、クリアすべき問題も出てくるだろう。しかし、せつかくいい建物があるのなら、それを活かして人が集まるような工夫をすべきだ。これは建物にとつただけでなく、周辺のにぎわいにも役立つ。  
大原 身近な人たちが楽しめる仕組みを作ることが、一番大事ではないか。楽しんでいけば、愛着も生まれる。もっとクリエイティブに使っていくというアイデアも膨らむ。だれかがリーダーシップを取るといふより、そういう気持ちで市民に湧き上がってくるのが重要ではないだろうか。

### 市民の気持ちがかぎ



おおはら けんいちろう  
1968年クラレ入社。同社副社長、中国銀行副頭取など歴任。91年5月から現職。2001年から倉敷商工会議所会頭。65歳。

### 大切な文化資料



うえだ やすつぐ  
ノートルダム清心女子大人間生活学部教授・学術博士。専門は住居学・近代建築史。著書に「アール・デコの建築家 薬師寺主計」等。54歳。

### 人の集まる工夫を



ふじき てつぞう  
1953年、父・藤木正一が興し、倉敷で多くの施工実績を持つ藤木工務店に入社。代表取締役社長を経て、2003年から現職。76歳。大阪・豊中市在住。